

## はじめに

今年の梅は一月も早い、などといっているうちに、例年になく暖かかった冬も去り、早や桜の季節を目前に迎えるころとなった。ここに研究所論集の特集号第7集をお届けする。

前回の総合研究特集号(85年度、第5集)は「岐阜の自由民権」をテーマにまとめたものであったが、たまたま自由民権運動100周年とも重なって、学界の注目を浴び、高い評価をえた。その後、新テーマの設定に当って論議を重ねた結果、岐阜県の産業と経済について長期的な取り組みをしよう、ということになり、これを数年計画で推進することにした。本号はその初年度に当るが、まず、理念と方法論についてまとめたものである。このあと明年度には歴史編、さらに続いて現況と実態編を、と継続発行の予定である。最終的には、これらを何等かの形で一本にまとめられたら、と考えている。

ふり返ってみると、今年は本学創設の20周年に当り、また地域経済研究所発足(前身の研究会)10周年にも当たっている。創設時をふり返り、また学舎や総合グラウンドの整備成った今日を思うとき感無量のものがある。本学の基礎づくりに奮闘努力された先輩各位の御労苦と、これを引継ぎ、次代へおくるわれわれの責任の重さをしみじみ思うのである。

ところで、今日、この大学は大きな転機にあり、同時に研究所もまた転機にあるように思われる。近年、国際化・情報化が社会の大きな潮流となっているが、これと無縁のままではおれまい。地方・地域に根ざした教学のあり方や進め方についても改めて検討する時期にきているように思う。そして、この20周年(あるいは10周年)を画期として、新しい発展の途を探らなければならない、と強く考えるものである。

今後、これらについて、皆で議論を重ね、また、皆のコンセンサスをえて道を開いて行きたい。御協力を切にお願いする次第である。

岐阜経済大学地域経済研究所

所長 大迫輝通